

# 痛む小指

私の右手には、ぐるりを取り巻いて六、七センチの火傷の痕がある。もう八十年近くこびりついてきたものだから、今では別に気にはならないけれども、少年の頃の細い手には大きな傷痕であった。

昭和二十年七月六日の深更、灯下管制下の甲府盆地になんと一三九機のB-29が襲来して焼夷弾を降り注いだ。米軍機は逃げ惑う人々の頭上に無数の焼夷弾を投下して容赦なかった。空襲が開始された二十三時五十四分から三十分ほどの間に市街地は焼く尽くされた。我が家は、母親に導かれ姉、妹と私の四人全員が無事に郊外の母の里に逃げおさせた。

右手の火傷とは別に、ほんの小さなものだが、左足の小指にも火傷の痕がある。私の火傷は市街地を逃げ惑う間に焼けた電線が落ちてきて、これに接触して負ったものだと、後に母親から聞かされた。電線が触れた時に小指が焼け、そこが癒着してできたものらしい。

さして痛むことなく七十年も過ぎてきたのだが、どうしたものかこの数年、八十歳頃からズキズキと

## 渡辺利夫 (公益財団法人オイスカ会長)

一九三九年、山梨県生まれ。七〇年、慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。筑波大学、東京工業大学教授、拓殖大学学長、総長、学事顧問などを歴任(二〇一〇年十二月、退任)。二〇一七年六月より現職。

痛み出してきた。靴はばんびろの4E、寸法も私の背丈では考えられない大きなものを履いているのだが、痛む時には外出を控えて仕事をキャンセルすることも何度かあった。

娘に促されて病院で癒着部位の切開手術をやってもらったのだが、少しも楽にならない。不思議なことに痛みは、八月の頃に特にひどい。八月頃になると毎年のようにテレビで反戦報道がしきりに流れる。全国各地の空襲の惨劇の姿をみるともなくみていると、小指が痛み出す。昔の記憶が痛みを引き起こすなんてことは医学的には証明できないにしても、私の経験からすれば痛みは紛れもない。

こんなことを友人に話すと、「渡辺さん、よく反戦主義者や反米主義者にならなかつたね」と冗談ともつかぬ反応が戻ってくる。「それとこれとは別だよ」と私は返す。反戦報道がなされるたびに、これが痛みをもって思い起こされる。現代史あの瞬間が毎年のように回顧されるといふのも、そう悪いことではないように思う。